一 般 演 題

Immunoradiometric assay kit (CIS) による血中サイログロブリン濃度の測定

才木 康彦 朽尾 人司 濱崎 利子 山田 明子 山口 晴二 尾藤 早苗 伊藤 秀臣 池窪 勝治

(神戸中央市民病院・核)

石原 隆 森 徹 (同・内)

石川 稔晃 (同・外)

Immunoradiometric assay kit (CIS) による血中 Tg 濃度の測定につき基礎的および臨床的検討を行った.血 中抗 Tg 抗体 (anti-Tg) の検出は栄研 Tg RIA kit に添 付の抗体測定法により行い10%以上を陽性とした.測 定条件は kit 規定の室温 24 時間にて最少検出濃度 3~5 ng/mlの良好な標準曲線が得られた。 アッセイ系は Tg に特異的で T3, T4 との交叉性を認めず, 精度および再 現性も満足できた. anti-Tg 陰性の血清の回収および 稀 釈試験は良好であったが, 陽性血清の稀釈による測定値 は2相性の減少を示した. anti-Tg 強陽性血清の回収率は きわめて不良であった. 臨床成績は健常者 (n=29) の血 中 Tg 値は 3~42 ng/ml に分布し、平均 15.3±10.4 (SD) ng/ml であった. 未治療で anti-Tg が陽性のバセドウ病 (n=8) および橋本病 (n=22) の 平均は 70.7±60.1 ng/ml および 64.6±77.6 ng/ml で前者の 63%, 後者の 45% が 高値であった。 腺腫 (n=25) の 平均は 269±353 ng/ml で 72% が 高値。 分化癌 (n=9) は 平均 161±214 ng/ml で 67% が高値であった. 各種甲状腺疾患 (n=5) の Tg 値と anti-Tg(%) の関係は高抗体価のものに Tg 値の低 い傾向がみられたが、低~中等度の抗体価の橋本病およ びバセドウ病ともに高値がみられ,癌と腺腫例 (n=19) の32%が高値を示した. ろ胞腺癌の肺転移の1例の血 中 Tg 値は全摘術で低下し 131I 治療で一過性に高値とな り以後減少した. なお, 本法による Tg の測定値は 栄研 キットによる測定値と r=0.84 の相関を示した.

以上本法は anti-Tg 陽性例においても血中のTg値の測定が行え,甲状腺疾患の診断,分化癌の治療後の観察に有用であり,免疫性甲状腺疾患の血中 Tg と anti-Tg 量の関連性の検討の一助となるものと思われる.

2. 血中 Thyroglobulin (Tg) の Radioimmunoassay

 村上
 稔
 西川
 彰治
 金子
 祐子

 河田
 律子
 石村
 順治
 末廣美津子

 福地
 稔
 永井
 清保

(兵医大・RI セ診療部)

Thyroglobulin (以下 Tg) の Radioimmunoassay (RIA) が確立され、その臨床的有用性が報告されつつある. われわれは、Tg RIA につき測定法としての基礎的検討を行うとともに、血中 Tg 値と血中抗 Tg 抗体価との関係につき若干の検討を加えた.

方法は, あらかじめ試験管に抗 Tg 抗体を固相化した サンドイッチ法を用いた. 標準曲線の安定性や、同一測 定内および異なる測定間の再現性に関する成績は、ほぼ 満足できる結果であった. 希釈試験の検討では、キット 添付の希釈液を用いた希釈曲線は, 原点を通る直線性が 得られたが, TGHA が 103 倍, 105 倍, 108 倍を示す血 清試料を用いた希釈曲線は、直線性が得られなかった。 また, TGHA が 10² 倍以下, 10³ 倍, 10⁵ 倍, 10⁸ 倍を 示す血清試料に、濃度の異なる標準Tgを添加して行った 回収試験では、TGHA の値が高値となるにつれ、回収 率も低下した. 一方, 血中 Tg 値を TGHA の力価別に みたところ, Tg 濃度は, TGHA が 10² 倍以下群で 3.0 以下~707 ng/ml, 10² 倍群で 3.0 以下~ 546 ng/ml. 10³ 倍群で 3.0 以下 ~164 ng/ml, 104 倍以上群で 3.0 以下~ 6.1 ng/ml との成績であった. さらに、I-125 標識抗 IgG 抗体を用い抗 Tg 抗体固相化試験管への 抗 Tg 抗体の影 響についても検討した.すなわち,抗 Tg 抗体固相化試 験管に TGHA の値が異なる血清試料を添加し、洗浄後、 I-125-抗ヒト IgG 抗体を添加し、TGHA の値と試験管 に結合する I-125-抗ヒト IgG 抗体の量を放射活性でみ た. その結果, TGHA の値と I-125-抗ヒト IgG 抗体の 結合量との間には、明らかな相関は認められなかったが、 TGHA が高くなるにつれ I-125-抗ヒト IgG 抗体の結合 量も多くなる傾向は得られた.